

府養研ニュース

2003年12月号

このページでは要点だけをお知らせしています。
詳細は、本ページのリンクをクリックください。新しいウィンドウでPDFファイルが開きます。

府養研ニュースは各種案内等の事務連絡と一緒に、毎月第1月曜日にEメールで配布されています。第1月曜が祝日であれば火曜日発行になります。
来月1月号は、5日がお正月ですので、1月12日(月)発行予定です。
一部メール網がまだ整備中もしくは検討中の市町村は、郵送または逡送されています。

平成15年12月1日発行 大阪府養護教育研究会(広報部)
事務局 堺市立茶山台小学校 会長 本郷 くみ 〒590-0115 堺市茶山台2-5-1
問い合わせ・ご意見は、Mailで 府養研役員宛 fuyouken-owner@egroups.co.jp

研究部 ICT活用プロジェクト研究会

終了 11月28日(金) 枚方市立第二中学校にて	○マウスのクリックをスイッチにかえてみませんか? (参加者報告)いろいろなスイッチの紹介が面白かったです。 車椅子の肘掛の部分に取り付けて、(手の)可動域のとても狭い子でも使えるようにするもの。(詳細は本文)
---	---

研修部	
●テーマ別研修会	行動に様々な問題を示す子どもたちの理解と援助 Q&A 12月25日 午後2時～4時半 八尾プリズムホール 申し込みはお済みですか? 詳細は先月号を。

行事部	
ただいま、府教育委員会事務局障害教育課との懇談会に向けて、質問内容を検討中です。 特別支援教育に向けて、府養研としても前向きに動いていきたいと思ひます。	

広報部 今年度研究紀要のための作業進行中です。	
障害教育の在り方や、難しいケースの子どもへの取り組み等々、精力的な論文が集まりました。 これから膨大な作業がありますが、今年度中に発行できるようにスタッフ一同頑張っていきます。	
論文タイトル(仮)と執筆者(一部変更)紹介	

各支部から

○北河内
・交野市 なかよし交流会報告
・大東市 市養研校外学習報告
予告 ・北河内LD研究会・寝屋川共催 LD・ADHD研修会 平成16年1月14日(水) 3時～5時 伊丹昌一氏 ふらっとねやがわ京阪香里園駅前 テーマ「こんな方法があった！ 教室で困っているこどもたちとその対応について」 通常学級担任も来てください
○中河内
・中河内中学生スポーツ大会報告 卓球とポーリンク等で交流を深めました。樟蔭高校から学生ボランティアで応援いただきました。
・東大阪市養研おたのしみ会報告 各ブロックで踊りや劇を互いに披露しました。パイオリンや手品のボランティア参加も。
予告 ・東大阪市養研LD講演会 12月10日(水) 竹田契一氏 イコーラムホール 通常学級担任も来てください。

情報提供

自閉症コーナー
第8回自閉症教育研究会 が行われました。参加させていただいたので、紹介します。 http://homepage1.nifty.com/kanaipage/index.html
発表者 大山説子(東大阪市立成和小)
『自閉症の障害特性に基づいた教材教具ならびに指導上の工夫の実際』(詳細記事あり) (参加者感想)自閉症の視覚優位を生かした、環境の構造化や教材の工夫をたくさんみせていただきました。教材はていねいに工作され、個々のニーズにあったアレンジが可能で、すばらしかったです。

マウス改造講座に参加して
ユニバーサルデザインにつながるマウス改造

長澤 靖浩
(枚方市立桜丘中学校)

はじめはどうなることかと思ったけど、援助スタッフがなくて手をあげると机まで来て目の前で説明してくれたので、なんとか完成することができました。横腹にジャックをつけることで、普通のマウスとしての使用にもぜんぜん支障のない、スマートなものに仕上がったと思います。



講師の先生の話の中身としては、マウスの構造の話は僕には難しすぎましたが、いろいろなスイッチの紹介がおもしろかったです。マウスにジャックをつけることは、純粹に「技術」的な問題ですが、スイッチ部分に関するいろいろな工夫こそ、個に応じた「教育」の問題だと感じました。



どんな器具でもいえることですが、子どもの訓練によって使いこなせるようになるという側面と器具の使い勝手のほうを子どもに合わせていくことで使いこなせるようになるという側面がありますよね。その後者の側面を追求して、いろいろなスイッチを工夫開発してこられた講師の先生やその周辺の方々の情熱に感銘を受けました。

車椅子の肘掛の部分に取りつけて、(手の)可動域のとても狭い子でも使えるようにするもの。足ふみ用の頑丈なバネのスイッチを使ってバンバン激しく叩く子の使用に耐えるようにするもの。

必要は発明の母と言いますが、「障害」も発明の母だなと思います。

そこに使い勝手の悪さがあるから使い勝手をよくしようとする。

あたりまえの行為のようではありますが、それをどこまでも追求していくことは、創造的な楽しさにつながっていくのですね。

また子どもの実態に合わせて器具を工夫することは別に訓練の否定なのではなく、マウスの場合はコミュニケーションツールだから、その目的に沿って使い勝手をよくしようとしているわけなのだとはよくわかりました。つまり、いつも目的に応じて器具を工夫すればいいのであって、たとえば訓練器具の場合も、もっとも使い勝手のよい(その子の訓練という目的に適応した)ものを工夫すればいいのですね。

つまり、いつでも創造的工夫は奨励されるべきことだと思いました。

それは実はいわゆる「障害」のあるなしに関わらないことでもありますよね。誰でもにとって使い勝手がいい製品を追求するユニバーサルデザインの理念にも繋がっているように思います。別スイッチ取り付けジャックが横腹についたマウスというのも、ひとつのユニバーサルデザインの実現かもしれません。基体部分（マウス）をユニバーサルデザインにして、取り付け部分（スイッチ）でさらに個に合わせて創造的に工夫するという二重構造も、いろいろと応用のきく考え方のように思いました。



各部より

広報部

2003年度研究紀要論文・執筆者

2003年度研究紀要の各支部論文タイトル(仮)が決まりました。
著者一部変更があります。

豊能支部	Aさんとの1年間	松岡 圭子	能勢町立岐尼小
三島 支部	AD/HD児への教育支援 -通常学級で生き生きと過ごすために-	池田 恭子	島本町立第二小
北河内支部	自閉的傾向をもつ児童との社会 科学習の取り組み	草薙 正己	交野市立岩船小
中河内支部	養護学級におけるLD(読み書き 障害)を疑われる児童への指導	井川 百々代	東大阪市立西堤小
	障害児の性に関する課題とは -学校教育修了後を見据えて-	土井 徳生	八尾市立安中小
南河内支部	みんなあつまれ! “にこにこのびだんじり”完成!	清水 初穂	富田林市立富田林小
堺支部	強度行動障害のある児童A君の 指導事例 -キーパーソンと共 に行動できることを目指して-	衣笠 道子	堺市立百舌鳥養護
泉北支部	花いっぱいになあれ みんな一緒に、楽しい-なかまの輪を ひろげよう!	浅井 良見 松田 さち子	和泉市立緑が丘小
泉南支部	“なかま”とともに・・・ ～身近なところから考えよう～	2年学年集団 (西村 英喜)	泉佐野市立長南中

11月27日に広報部にて読み合わせ会を行いました。障害教育をまじめに考えて取り組んだもの、とても難しいケースにしっかりと知識や経験で取り組んだもの、ほのぼのしたもの、とてもアイデアにとんだ取り組みが感じられる論文に、「実に頼もしいですね。」「微笑ましい。」「あったかい。」などと言いながら、楽しく作業させていただきました。これからCD-ROM発行に向けて、広報部として膨大な作業が残っていますが、これらの立派な論文をぜひとも会員の方々に無事届けられるよう、頑張っていきたいと思います。今年度は今年度中の発行をめざします。

北河内地区の取り組み

交野市 なかよし交流会

10月31日(金)、交野市の小中学校の養護学級に在籍する児童・生徒および保護者の方が交野市立藤が尾小学校の体育館をお借りし、「なかよしこうりゅう会」を行いました。毎年10月末に行う行事ですが、できるだけ市内の養護学級児童・生徒の交流と大勢の人が集まり楽しい時間が過ごせるようにと、昨年から交流内容の工夫を行いました。



交流のメインは「新聞で遊ぼう」です。各自が持ち寄



った新聞紙を使って、木を作ったり、大きな山を築いたり、最後は大玉にして競争をしたりと一つの素材を使ってみんなで楽しく遊ぶことができました。その他に「アルゴリズム体操」、自分で作ったメダルを取り合う「じゃんけんゲーム」、それから大きな風呂敷状の布の中で不思議な体験ができる「バルーンであそぼう」など、子どもと教師と親が一緒になって交流することができ、楽しい一日になりました。

大東市 市養研校外学習

「わあ、かわいい！」

11月17日(月)、大東市の小中学校の養護学級に在籍する児童・生徒たちが、年一回の校外学習に出かけました。

場所は堺市にある、ハーベストの丘です。

先生と子ども合わせて100名を超える参加者。バス3台に分乗して出発です。

バスの中では楽しいレクリエーション。ついたらそれぞれで施設見学。

秋晴れのすばらしい空の下、自然や動物にふれあい、楽しそうな声が丘いっぱいに広がりました。



北河内養護教育研究会会員様
寝屋川市養護教育研究会会員様

平成15年12月1日

北河内養護教育研究会
会長 柳本 光久
寝屋川市養護教育研究会
会長 明照 公男
北河内LD研究会
事務局長 木原 弘

LD・ADHDに関する研修会についてのご案内

今年度より発足いたしました、北河内養護教育研究会特別プロジェクト「北河内LD研究会」主催の第2回研修会を下記の要領で開催いたします。つきましては、校務多忙とは存じますが、ご参加くださって、障害のある子供たちの教育に活かしていただきますようお願い申し上げます。
なお、今回は寝屋川市養護教育研究会の共催といたします。

記

- 1 テーマ 「こんな方法があった！
教室で困っている子どもたちとその対応について」
- 2 日時 平成16年1月14日(水)
午後3時00分～午後5時00分
- 3 会場 ふらっとねやがわ (市立男女共同参画推進センター)

所在地 〒572-0084
寝屋川市香里南之町16番15号
(JAビル香里4階)

電話番号 TEL: 072-832-5580
FAX: 072-802-8350

4 会費 無料

5 講師 伊丹 昌一先生(大阪府立中津養護学校)
学校心理士、言語聴覚士、LD教育士
北河内LD研究会スーパーバイザー

6 内容

教室で困っている、子どもたちへの支援方法について。

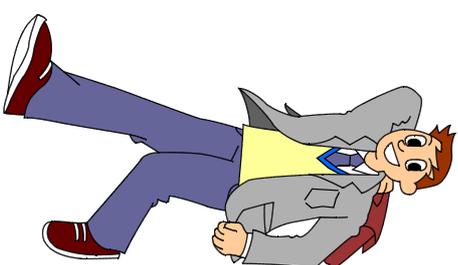
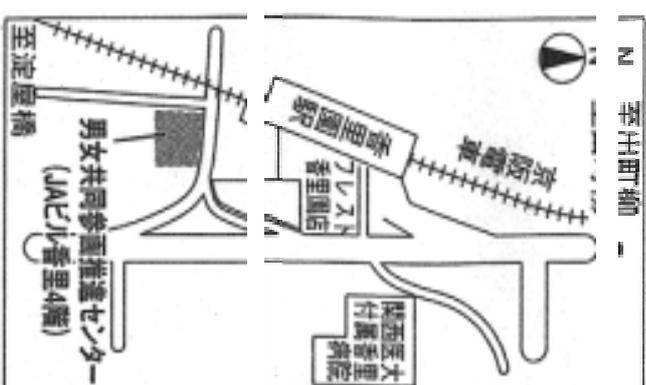
- ・すわっていられないAくん
 - ・すぐにカッとしてしまうBくん
 - ・ぼんやり自分の世界にいるCさん
 - ・読めるのに、意味がとれないDちゃん・・・
- 生徒の具体例をもとに、支援方法をアドバイザーします。先生にも、通常の学級担任で、心配している生徒さんをお持ちの先生にも、是非参加の呼びかけを、お願いいたします。

問い合わせ先

枚方市	雨堤直子	枚方第二小学校	072-843-5125
寝屋川市	横山幸子	池田第二小学校	072-829-7900
守口市	仲村康子	錦中学校	06-6998-6610
大東市及びその他の市	木原 弘	深野中学校	072-879-4891

メールはこちら pearl@cat.email.ne.jp 木原弘まで

会場地図 駐車場はありません。電車でお越しください。



中河内支部

府養研中河内支部中学生スポーツ大会

毎年、東大阪市八尾市柏原市の3市の養護学級、養護学校の中学生が集い、卓球やボーリングを楽しみます。開催場所は3市を順番にまわっていきます。今年は11月11日、東大阪市東体育館で実施されました。ボーリングでは、傾斜台を使うコーナーもあるなど、個々の子どもの実態にあわせた工夫があります。どの子も一所懸命参加していました。午後は先生や保護者も交えて、玉入れやパラバルーンを楽しみました。樟蔭高等学校の学生さんたちがボランティアで協力してくれました。ひとりひとりの子どもへの細やかな対応がありがたかったです。子どもたち、ボランティアの双方の思い出に残る良い交流ができて良かったと感じました。



東大阪市養研 おたのしみ会

11月27日、東大阪市市会館において、東大阪市養研主催、おたのしみ会が行われました。踊りや劇、歌など、それぞれが日頃の成果を舞台で見せあいました。近隣のブロック別の発表のため、近隣校同士行き来して、いっしょに練習したり、交流したりして準備しています。ボランティアのバイオリン、手品もみんな楽しんでいました。サンタさんのプレゼントもうれしそうでした。



自閉症コーナー

大阪自閉症教育研究会の紹介

レポーター藤岡聖典（本部書記）

大阪自閉症教育研究会は、大阪で小中学校の養護学級の担当の先生、あるいは通常学級で自閉症や自閉症と思われる子どもの指導に悩んでおられる先生、幼稚園や保育所で自閉症あるいは自閉症と思われる子どもの指導で悩んでおられる先生を対象に、堺市立百舌養護学校の金井先生が継続して行われている自主研究会です。11月28日に第8回目の会が東大阪市成和小学校で行われました。すでに大阪各地から多数の方が参加されておられますが、このたび、取材を兼ねて参加いたしましたので、報告します。

参加報告

『自閉症の障害特性に基づいた教材教具ならびに指導上の工夫』

報告者 東大阪市立成和小学校 大山説子先生

自閉症の心理学的な障害特性に基づいた教材とはどのようなものなのか、パワーポイントによりわかりやすく紹介されました。視覚支援を中心に、状況の見通しを持たせるための工夫についてお話があり、参加者との意見交換のあと、大山先生の教室の中を見学させていただきました。

教室は、自閉症に必要な不可欠な視覚支援による工夫がたいへん丁寧な工作で行われていました。例えば、落ち着くためのスペースや自立課題をするスペースがきちんとコンパネ等でしきられ、構造化されています。余分なものは見えないように収納ケースに入れるか、カーテンで覆われています。スケジュールやその他の掲示物は個々の子どもが自分で見てわかるよう、自分でも入れ換えたり工夫できるようになっていました。

学習用教材は大山先生の手作りですが、アイデアにあふれ、市販できるのではという出来ばえで、しかも個々に応じてアレンジが可能な点がすばらしいと感じました。ドラえもんボックスは、上から字のカードを入れるとそれに対応した絵カードが出る（実は裏返るだけなのですが、そう見えません。）不思議なボックスです。計算や絵合わせ用カードで正解になると音楽が鳴る教具もありました。玩具の「せんせい」（マグネットで絵を描ける）を使って消える課題の一覧、といった工夫もありました。

個々の意見交換では、ポイントポイントにおいて、経験豊富な金井先生から適切なアドバイスがあり、個々の会員が安心して悩みや疑問点を出せる雰囲気があります。質問も多く、遠方から熱心に通っておられる会員の熱意が感じられる研究会でした。

自閉症研究会のホームページ（金井さんのホームページ）には、近いうちに今回のまとめがあげられると思います。第7回までのまとめは既に上がっています。興味のある方はぜひどうぞ。<http://homepage1.nifty.com/kanaipage/index.html>

金子孝明 My Homepage

